

サイバーセキュリティシンポジウム道後 2018 などでの活動報告

迷惑メール対策推進協議会（以下「協議会」という。）は、（一財）日本データ通信協会（以下「日本データ通信協会」という。）からサイバーセキュリティシンポジウム道後 2018（以下「SEC 道後 2018」という。）への参加要請を受け、2018 年 3 月、協議会技術ワーキンググループの櫻庭主査と加瀬副主査を SEC 道後 2018 へ派遣し、なりすましメール対策に有効な送信ドメイン認証技術の一種である DMARC に係る講演を行った。

なお、日本データ通信協会では SEC 道後 2018 において、送信ドメイン認証技術を紹介した「電子メールなりすまし対策（第 4 版）」などを配布したほか、2018 年 5 月に開催された第 22 回サイバー犯罪に関する白浜シンポジウムにおいても同冊子などを配布し、迷惑メール対策に係る周知啓発活動を行った。

1. SEC 道後 2018 のイベント概要

日 時：2018 年 3 月 1 日（木）～3 月 2 日（金）

会 場：愛媛大学城北キャンパス、ホテルメルパルク松山

主 催：サイバーセキュリティシンポジウム道後実行委員会

参加者：サイバーセキュリティ関係者など約 400 人

（プレイベント、関連イベント SEC 道後バーチャルキャンパスを含め、のべ参加者は約 1,200 人）

参考（第 22 回サイバー犯罪に関する白浜シンポジウムの概要）

日 時：2018 年 5 月 24 日（木）～26 日（土）

会 場：和歌山県立情報交流センター Big-U および ホテルシーモア

主 催：サイバー犯罪に関する白浜シンポジウム実行委員会

参加者：サイバーセキュリティ関係者、研究者、行政関係者など約 500 人

2. 講演概要

（1）櫻庭主査による講演

日時：3 月 1 日（木） 15:05～16:15

タイトル：送信ドメイン認証技術 DMARC によるなりすましメール対策

内容：

近年、メール送信者をなりすましたメールにより、大きな被害が発生している。こうした問題に対しては、メール受信者だけが対策するのではなくメール送信者もなりすまされないための対策が重要となる。現在、欧米を中心とした主要な組織やサービスプロバイダでは、DMARC を普及させることで、こうした問題に対処しようとしている。本講演では、DMARC の基礎から日本での導入に際しての注意点、国内外の普及状況について解説した。

(2) 加瀬副主査による講演

日時：3月2日（金） 15:25~16:35

タイトル：送信ドメイン認証技術 DMARC の導入とその利用方法

内容：

近年、DMARCは欧米を中心に急速に普及し、効果をあげてきている。これまでの送信ドメイン認証技術は、メール受信側でなりすましメールを見破れるメリットはあったが、DMARCではさらに送信側がレポートを受け取ることができるようになる。これにより、自ドメインの設定状況やメール利用状況、なりすましメールの流通状況が把握できるようになる。本講演では、こうしたレポートの詳細、利用方法、さらには将来的に必ず必要になるであろうドメインレピュテーションといった応用技術についても解説した。

3. 日本データ通信協会による冊子の配付

日本データ通信協会では、「電子メールのなりすまし対策（第4版）」をSEC道後2018で約650部配布※したほか、全般的な迷惑メール対策を紹介した「撃退！迷惑メール」などの冊子も配布した。また、第22回サイバー犯罪に関する白浜シンポジウムにおいても同様に冊子を配布した。

※2018年2月に「電子メールのなりすまし対策（第4版）」へ改訂後、イベントでの配布は初めてとなるもの。

電子メールのなりすまし対策（第4版）



4. イベント模様

会場風景



櫻庭主査による講演



加瀬副主査による講演



ブースでの冊子の配布

